

## 日本精神科病院協会の今年3月以降の支援状況と今後の支援予定について

### 1. 3月以降の支援状況

・東日本大震災の発生後、福島第一原子力発電所の事故により、精神科の入院病床が消えた福島県浜通り北部の「相双地区」が「精神医療空白地帯」となることは何としても避けてほしいという当協会に対する会員病院の切実な要請を受け、相馬市に精神科診療所（「メンタルクリニックなごみ」）が1月10日に開設された。院長には、当協会の会員で沖縄県沖縄市の新垣病院の理事長を勤めている新垣医師が就任し、週3回沖縄から通っているほか、残りの週2日については、4人の医師がローテーションを組んで診察に当たることにより、当診療所において週5日の外来診療を確保し、地域の精神疾患患者の治療に日々当たっている。

また、緊急入院を必要とする精神疾患患者については、地域の会員精神科病院が後方支援として受け入れ態勢を構築し、緊密な連携のもと可及的速やかに当該患者の受入を行っている。

・東日本大震災に伴う福島第一原子力発電所の事故の影響により、入院医療の再開ができず、外来診療を余儀なくされている南相馬市の会員病院への医師派遣要請を他の会員病院に対して行っている。

・医療福祉機構に対し、被災した会員病院の災害復旧にかかる融資については、低金利などの特別な措置を図るよう要請を行っている。

・当協会の支部である宮城県精神科病院協会が大震災の経験を全国の精神科病院に伝え、今後に生かしたいという願いから『MIYAGI 3.11 2011 東日本大震災の記録』を4月29日に作成し、会員病院等関係機関へ送付した。

### 2. 今後の支援予定

引き続き上記支援を行うほか、被災した会員病院の貴重な経験を踏まえた全会員病院向けの『防災マニュアル』の策定に着手し、年度内に完成・配付を目指し鋭意取り組んでいる。